

## ニューヨークコリアンパレード（朝鮮通信使・日本国武士役）

10月2日（土）に開催された第30回ニューヨークコリアンパレードにおいて、（財）釜山文化財団及び長崎県対馬市からの依頼を受け、朝鮮通信使における対馬藩武士団の衣装を着て行列に参加しました。今回は、そのコリアンパレードについて報告します。

### 朝鮮通信使について

朝鮮通信使とは、李氏朝鮮時代後期において、江戸幕府からの要請で1607年から1811年までの約200年間、12回にわたって朝鮮から日本に派遣された公式の外交使節団のことを言い、残された記録によると、国書を携えた3人（正使・副使・従事官）を含めた300～500人もの一団が、6ヶ月から1年余りかけて日本を縦断したものである。詳細は[自治体国際化フォーラム10月号](#)に掲載されているが、隣接した両国が長きに渡り友好的交流を続けた稀有な例として、今日においても平和の象徴として捉えようという動きがある。

このたび、朝鮮通信使の研究及び啓発を行っている（財）釜山文化財団が実施する行列再現の趣旨に賛同した対馬市から、ニューヨーク在住の日本人武士役幹旋を依頼されたのを受け、当事務所からも参加者（7名）を派遣したものである。

### パレードの様子

澄みきった晴天に恵まれたパレード当日の朝、当事務所関係者を含めた18名が会議室に集合し、一斉に衣装の着替えを開始した。対馬市からいらっしやった観光物産協会会長の庄野氏に手伝っていただいたものの、多くの参加者は武士の衣装の着付けに戸惑い、お互い見よう見まねで衣装と格闘していた。



着替えを終えた武士役集団は、事務所から集合場所まで10分ほど徒歩で移動したが、さすがにすれ違う人々からは大きな関心を引き、時折「SAMURAI!」という声も聞こえてきた。集合場所には既に韓国側のパレード参加者が待機していたが、朝鮮通信使の他にも社交ダンスやテコンドー等様々な団体がおり、パレードに向けて練習を繰り返していた。

集合から 30 分以上が経過したころ、ようやく行列が動き始め、いよいよ武士役の行進が始まった。行進はマンハッタン中西部のブライアントパーク周辺からスタートし、ブロードウェイを横切ってコリアンタウンまで、およそ 500 メートルほどであったが、沿道からの注目を浴びながらゆっくりと歩いたせいか、それ以上に長いものを感じられた。



### 親書交換式

親書交換式が行われるコリアンタウンには、韓国の旅行会社や食品会社等がブースを出展しており、多くの人ばかりでにぎわっていた。パレードが無事終了した後、この日のために設置された舞台では、韓国系と思われる人達を中心に多くの観客が見守る中、朝鮮通信使正使（許南植釜山市長）と日本国藩主（角茂樹国



連日本代表部大使）との間で親書交換が行われた。なお、角大使の着替えについても当事務所大会議室で行われ、待ち時間の際には歓談する機会に恵まれた。

### 所感

武士の衣装を着てニューヨークの街中を歩き、パレードに参加するという今回のイベントは、恥ずかしさもあったものの、得がたい貴重な経験になったと思う。私の派遣元である札幌市においては、10月22日（金）に韓国・大田市との姉妹都市提携が締結されたが、今後一層関わり方が重要となるであろう隣国について、理解を深めていくべきではないかと感じた。

(高橋主事 (東京本部インターンシップ)・札幌市派遣)